



自走型データベースの構築による 情報発信の効率化と活用促進

— 1人1台端末・高速通信環境を活かしたICT活用推進を目指して —

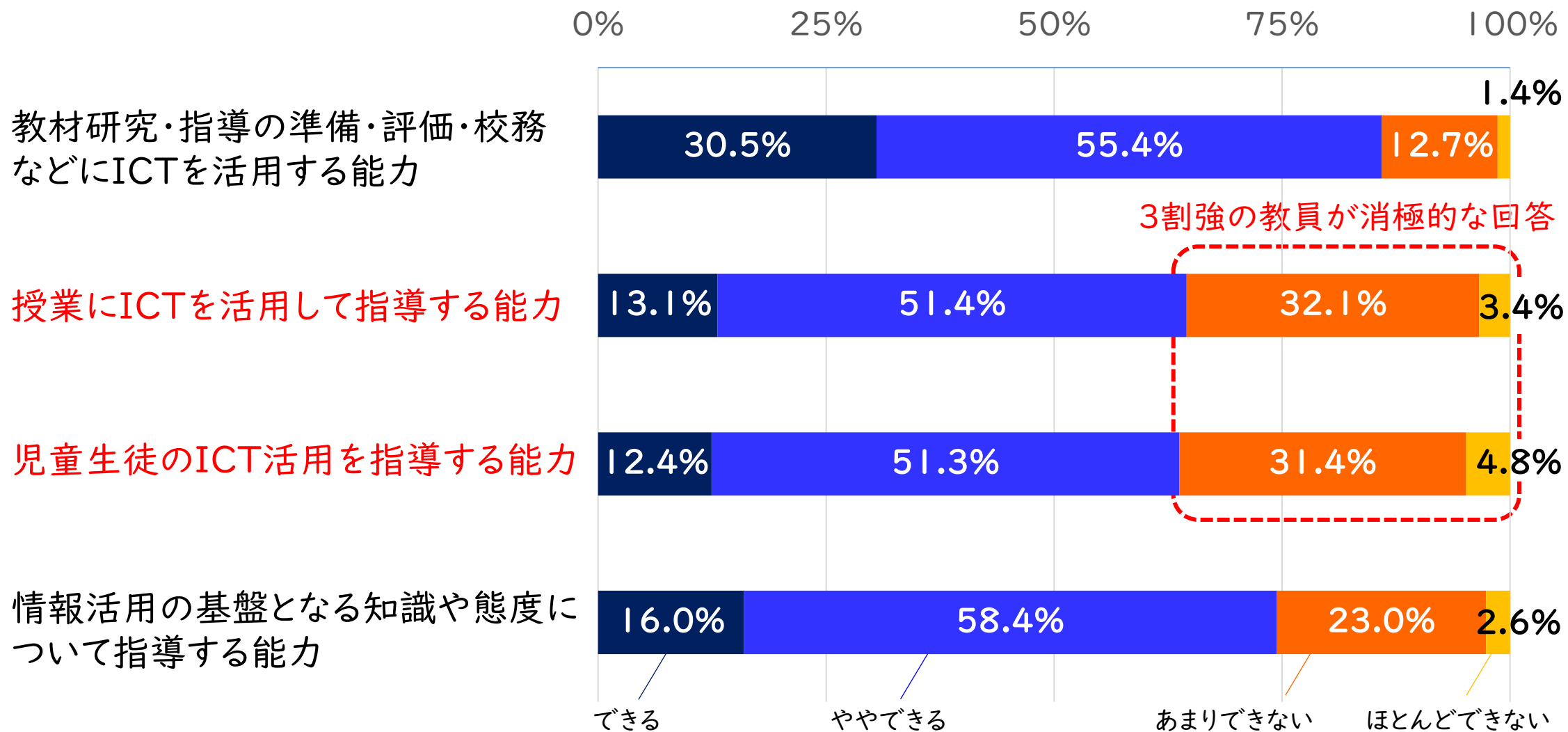
長崎県教育センター
教育支援研修課
係長 野口 誠

研究の背景

- 教員のICT活用指導力の現状
- 既存のICT活用事例データベースの利用状況
- 既存のICT活用事例データベースの課題
- 特別支援教育課との連携による調査研究の実施



教員のICT活用指導力の現状



長崎県教育庁特別支援教育課による実態調査をもとに作成(令和3年3月実施)

既存のICT活用事例データベースの利用状況



206事例

特別支援学校における
ICT活用事例データベース
(オンプレミス)



十分に利用され
ているとは…



閲覧回数
585回

Webページ
(ID・パスワード認証)

【閲覧回数】

1事例あたり 平均 2.8回

最大 54回

1ヶ月あたり 平均 10.6回



(平成29年4月～令和3年10月の累計値)



30事例

肢体不自由支援学校
におけるICT活用事例集
(平成28年1月)



125事例

病弱支援学校(3校)
におけるICT活用事例集
(平成31年1月)



81事例

県内特別支援学校
におけるICT活用好事例
(平成29年度～令和元年度)

既存のICT活用事例データベースの課題

汎用データベース

特別支援学校におけるICT活用事例データベース

前 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 次

教科等 [] 使用機器 [] 対象年代 []

障害種 [] 並べ替え [] 10件 []

検索

授業名 **もっといただけますか。_pdf (4)**

教科等 外国語/外国語活動

使用機器 その他

対象年代 中学部

障害種 肢体不自由
病弱・身体虚弱

IDとパスワードによるログイン

キーワード検索できるのは特定の項目のみ

タイトルから内容をイメージしづらい

中 学 部 英語 もっといただけますか。

2年

タイプ I 課程 II 課程 III 課程 訪問

障害種 病弱 肢体不自由 重複

授業の目標

- 「～でもいいですか」と許可を求める表現を理解する。
- 承諾するときの表現や承諾しない場合の表現について理解する。

● 児童生徒について

- 2年3名（心身：2名・整形：1名）
- 簡単な単語が書けなかったり、スペルミスが多かったりする。
- 文法事項について授業で理解できるが、時間が経過すると定着していないことが多い。
- 3名とも学習態度は良好で、音読やペアワークについては意欲的に取り組むことができる。

● 指導の工夫

- 教材の提示や解説は、プロジェクタを使用して文字や画像を使用する。
- 新出語をフラッシュカード式に提示し、テンポよく発音練習を行う。
- 基本例文が用いられるような状況の画像を提示し、表現方法を確認する。
- 基本例文をもとに、状況を変化させた画像を次々に提示し、ドリル形式で口頭練習を行う。

● ICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

大型TV 教材の提示や解説、口頭練習

● 活動場面等と説明

写真1：場面から表現方法を推測する。複数の場面を提示する。

写真2：表現方法を確認する。基本例文を提示する。

写真3：徐々に状況を変え、ドリル形式で口頭練習を行う。

● 児童生徒の様子

- 新出語を1字ずつ提示することで、文字と音の関係に注意して発音し、基本例文が用いられる画像を提示することで、使用する状況や場面をイメージしやすくなる。
- 画像を用いたドリル形式の口頭練習では、楽しみながら理解を深める。

● 授業の評価

- 文字と音のつながりを考えて単語を発音することができた。
- 使用する状況や場面を知ることが、基本例文の理解につながった。
- 基本例文をもとに十分に口頭練習を行ったことで表現方法が定着し、書くことにつながった。

No.10	①中ⅡC 1年	②国語・数学	③見る・聞く・触る
(ビデオ:体育館)			
④授業の目標および活動のねらい			
・教師の簡単な言葉掛けに応じる力や言葉を模倣する力を伸ばす。(聞くこと、話すこと)			
・物を見続けたり、物を操作したりする力を伸ばす。(読むこと、書くこと)			
⑤対象生徒について			
脳性まひにより両上下肢に著しいまひがあり、知的障害を伴っている。座位保持椅子や車椅子で学習に取り組んでいる。低緊張で首は座っていないが、興味がある物を提示すると、左手を伸ばしそれを触ろうと30秒程度頭部を保持することができる。視覚よりも聴覚が優位であり、周囲の音や人の声を聞き分けなじみのある声や音楽がなると笑顔になったり、歌のフレーズを歌ったりする。喃語が多いが、教師の言葉を模倣したり、給食時には「スープ」「牛乳」などの状況に応じた言葉を発したりすることもある。			
⑥機器類	iPad アームスタンド		
⑦アプリケーション等	あそべビー		
⑧機器活用のポイントおよび指導の経過		活用の主体(教師・生徒)	
<機器活用のポイント>			
・本生徒は、iPadに興味をもって自ら手を伸ばし触ろうとする。iPadを触った時に音が鳴ったり、画面が動いたりする反応を楽しむ様子が見られる。			
・本授業は、生徒二人に対して教師が一人で指導する体制をとっている。個々の目標達成を考えると、教師との1対1の学習が基本であるため一人は待ち時間ができてしまう。そこで、待ち時間を有効に活用するため、物に触れようとする意欲の向上をねらいとして、本人の好きなiPadの活動を取り入れることとした。			
・車椅子のテーブルに固定されたiPadのアプリケーション「あそべビー」を教師と一緒に開き、その後は一人でiPadを触って活動している。			
<指導の経過>			
・左手を挙げてiPadを常に触り、画面が動くことを楽しみながら集中した活動が行っている。音声で模倣している。画面を変えて欲しいときに「変えて」と、状況が何度かあった。			
・音が切り替わることを楽しむ様子が見られているが、今後はアクセ、画面が切り替わらないことについて教師に向けて援助を求めて教師とやりとりする力や自分の働きかけで何か変化が起きることを理解する力をより伸ばしていきたいと考えている。			

様式の不統一

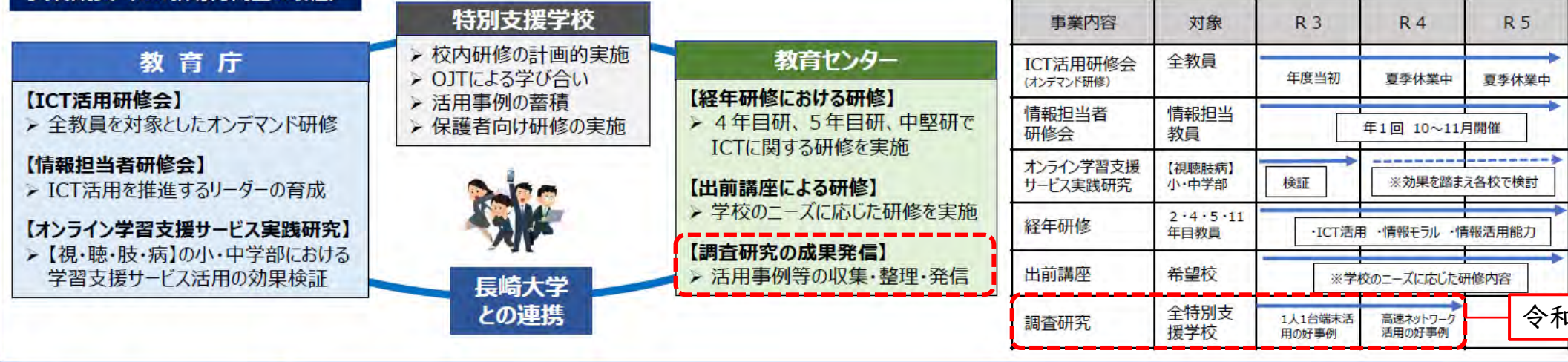
特別支援教育課との連携による調査研究の実施

特別支援学校ICTチャレンジ&チャンス推進事業

【目的】 全ての教員のICTを活用した指導力を向上させることにより、児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難を軽減・改善するとともに、児童生徒の持てる力（可能性）を最大限に引き出す教育の一層の充実を図る。

目指す教師像 R3 タブレットパソコンの基本的な機能やアプリの使い方を知り、授業で活用できる。 R4 障害の状態や特性等に応じた機器やアプリの選定、使いやすい環境設定等ができる。 R5 学習のねらいに応じて、デジタルとアナログを効果的に使い分けながら授業を行うことができる。

事業概要（ICT指導力向上の取組）



事業後に期待される成果

個別最適な学びの充実

個々の障害の状態や特性等に応じた活用



家庭等における活用の推進

児童生徒の活用スキルの定着や向上及び保護者の理解促進



遠隔授業の実施による学習機会の保障

病気療養等や訪問教育の児童生徒の学びの保障



交流及び共同学習の一層の推進

特別支援学校と居住地校による遠隔授業の実施や日常的な交流の促進



データベースに係る調査の実施

- ICT担当者を対象としたアンケート調査
- 研修講座等における情報収集
- 学校訪問による現状把握



ICT担当者によるアンケート調査①

対象 県下23の特別支援学校(本校・分校・分教室)のICT担当者

回答数 21件 **方法** Microsoft Forms

1. データベースの使いやすさ(5段階評価)

使いやすい ★★☆☆☆ 使いにくい (評価の平均:2.6)

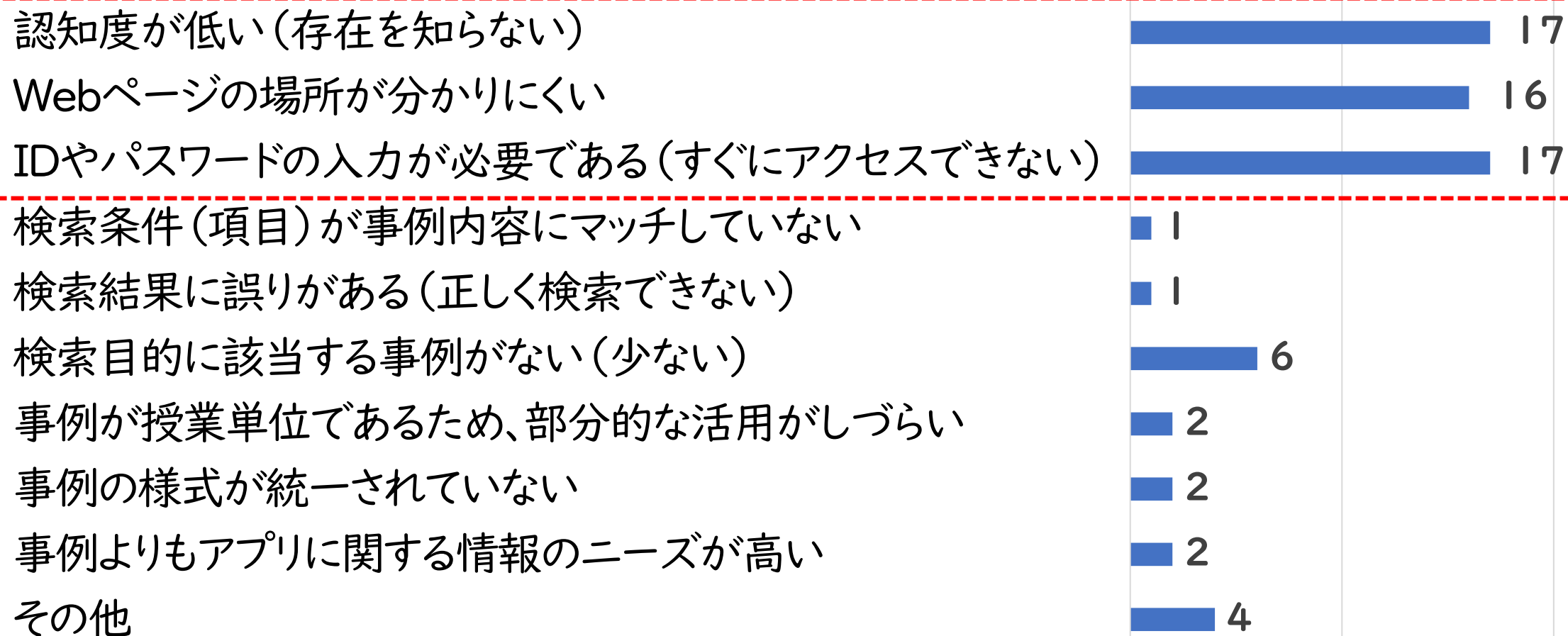
2. データベース改善の必要性(5段階評価)

現状でよい ★★★★★ **改善が必要 (評価の平均:3.9)**

ICT担当者によるアンケート調査②

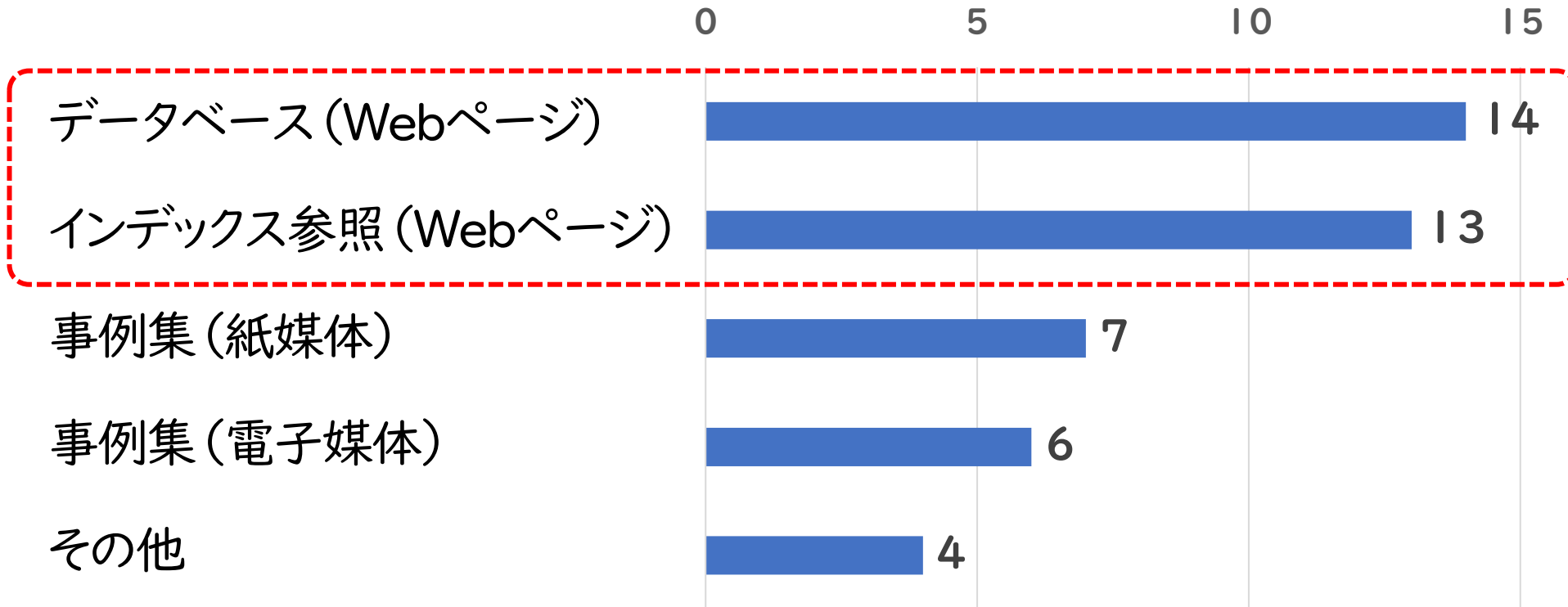
3. データベースの利用が少ない原因（複数回答）

0 10 20



ICT担当者によるアンケート調査③

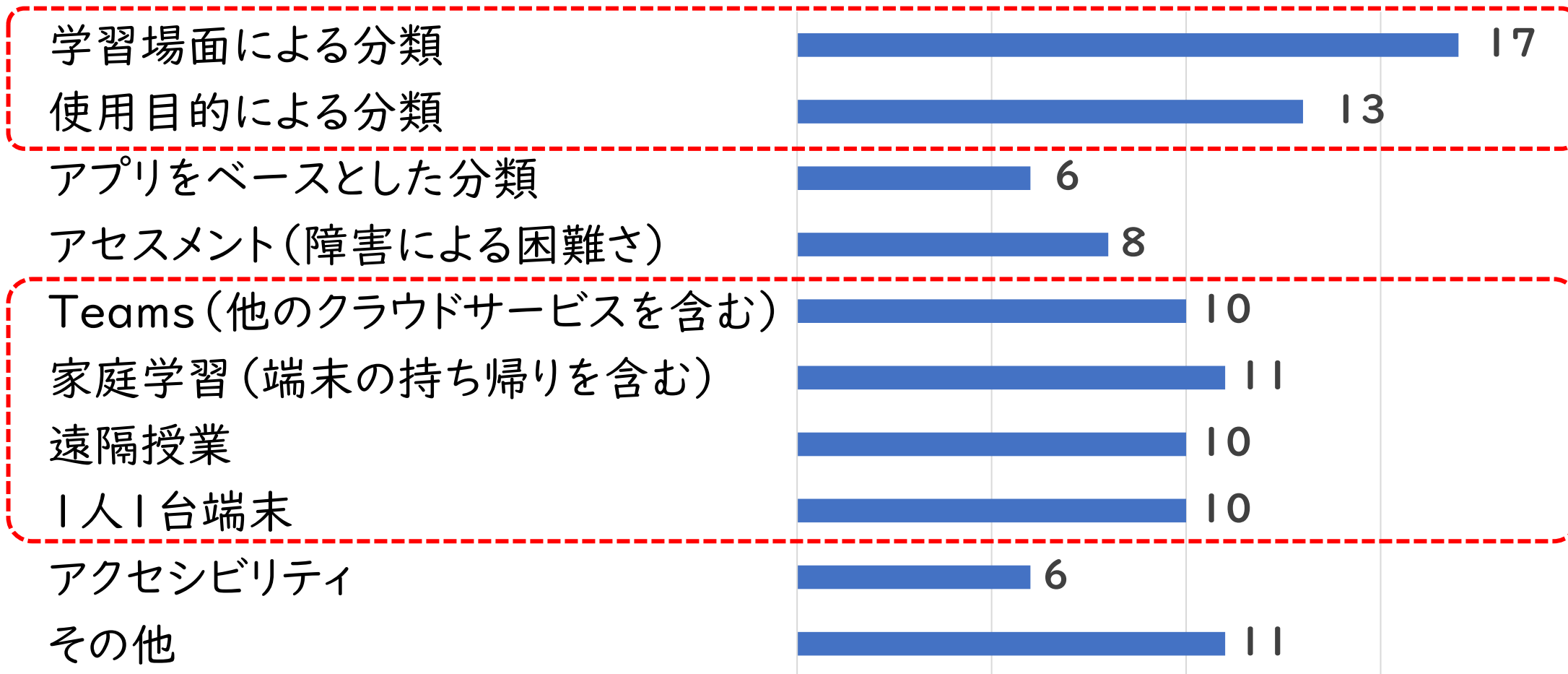
4. 参照頻度を高める発信媒体や手段（複数回答）



ICT担当者によるアンケート調査④

5. 積極的な活用のために追加すべき検索条件（複数回答）

0 5 10 15 20



ICT担当者によるアンケート調査⑤

5. 積極的なデータベース活用のための方策（自由記述）

- アクセスのしやすさ
- 情報の見やすさ（一覧表示、サムネイル表示など）
- フォーマットの統一
- 表示内容の精選
- 検索項目の充実・改善
- キーワード検索の追加
- 付加情報（アプリ、活用アイデア等）の提供
- 情報の刷新（旧情報の削除）及び登録件数の調整
- 新規登録の通知 など

研修講座等における情報収集

タブレット端末が不足して
いて、教材研究でア
プリを事前に確認する
ことができないんです。

アプリに関する情
報が不足している
と思います。

どんなアプリがあるの
かが分からないと授業
の中でどう使うのかを
考えにくいんですよ。



タブレット端末のアプリ情報へのニーズ

容量が一杯でアプ
リをインストールが
できないんです。

アプリをインストールする
際、起案が必要なので、
躊躇してしまうんです。

MDMがあるから、ア
プリのインストール
が面倒で…。



Webアプリ活用の可能性

なるほど！

〇〇アプリを使って
●●すれば、教材
の準備時間が短縮
できますよ。



ICT活用アイデアへのニーズ

ICT活用事例以外の
各種情報へのニーズ



学校訪問における現状把握

学校全体としては、ICT活用について、概ね前向きな取組ができています。

積極的な教員がいる一方で、依然として、苦手意識をもつ教員もいるんですよね。



情報共有の必要性

〇〇の授業で使えるアプリはありますか。



タブレット端末のアプリ情報へのニーズ

アプリに関する情報のニーズが高い。

ICT活用好事例を手軽に共有できる仕組みづくりが必要。

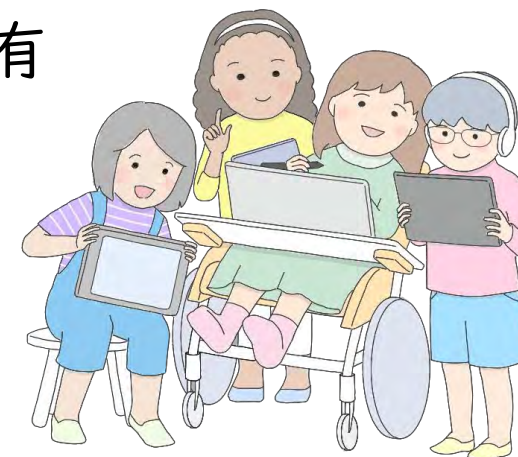


ICT活用事例及び
アプリ情報へのニーズ



データベースの構築及び 検索・閲覧アプリの作成

- ICT活用事例データベースの変更内容
- ICT活用事例データベース
- 自走型データベースの仕組みを活用した他の情報の共有
- データベースの登録・更新・削除



ICT活用事例データベースの変更内容

	従来	令和4年度以降
データベース	NetCommons 2 (オンプレミス)	Microsoft SharePoint (カスタムリスト) (クラウド)
提供方法	Webページ(限定公開)	Power Apps (アプリ)
利用方法	Webページへのログイン (ユーザID、パスワードを都度入力)	Microsoftアカウントへのサインイン (サインイン維持可)
提供媒体	PDF (Web表示またはダウンロード)	アプリ画面 (Webアプリ画面)
登録方法	<ul style="list-style-type: none">● 特別支援教育課へのメール送信 (PDF添付)● 教育センター所員の手入力による登録	<ul style="list-style-type: none">● Microsoft Formsによるアップロード (Excel、画像)● Power Automateによる自動登録
登録時期	当該年度末頃	随時
登録通知	特になし	Microsoft Teamsへの投稿 (都度) (Power Automateによる自動通知)

ICT活用事例データベース

特別支援学校ICT活用T&Tチーム 

1 データベースの利用登録



Forms

利用申請

Power Automate

検索アプリの利用登録

チームへの
メンバー追加

データベースへの
アクセス許可

2 データベースの検索・閲覧



アプリによる検索・閲覧

Power Apps



好評価の入力

閲覧回数・好評価数の記録

Teams

事例登録の通知
(チャンネルへの投稿)

SharePoint

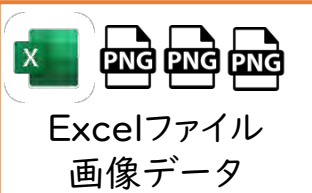


データベース

3 ICT活用実践



4 ICT活用事例の登録



Excelファイル
画像データ

Excelへの入力
事例紹介画像の準備

Forms

アップロード

Power Automate

事例登録

データベースの保守・管理



教育センター所員

ICT活用事例データベース（画面）

【一覧画面】

ICT活用事例

障害種 全て 対象年代 全て リセット

教科等 全て 学習場面 全て

活用の視点 全て キーワード検索

説明シートでコミュニケーションのきっかけづくり 0

視覚障害、知的障害 高等部 3年

自立活動 表現・制作 (B4) 障害による困難さの改善

Web教材やWeb検索でiPadの基本操作を習得 0

視覚障害、知的障害 高等部 3年

NO IMAGE 自立活動 個に応じた学習 (B1) アセスメント (障害による困難さ)

修学旅行のしおりをデジタル化してiPadで管理 0

聴覚障害 中学部 2・3年

NO IMAGE 総合的な学習の時間・特別活動 個に応じた学習 (B1) 1人1台端末

iPadを発音の確認や筆談に活用 0

聴覚障害 中学部 2・3年

総合的な学習の時間・特別活動 個に応じた学習 (B1) 1人1台端末

3Dモデルを投影しておおよその形を捉える 0

聴覚障害 小学部 6年

算数 教師による教材の提示 (A1) 教科等の指導

Web会議で朝の会に参加 0

聴覚障害 中学部 1年

【詳細画面】

ICT活用事例 0

説明シートでコミュニケーションのきっかけづくり

視覚障害、知的障害 高等部 3年

自立活動

表現・制作 (B4) 障害による困難さの改善

○他者に伝えるための簡単な説明シートを作成し、コミュニケーションのきっかけにする。

○弱視生徒（視野も狭い）で、聴覚から得た情報を記憶することが得意である。

○親しい人と話すこと好むが、同年代の友人と話すことに消極的である。

◆iPadに保存済みの印象に残っている写真や他者に伝えたいと思う写真を選択する。

◆考えた説明文をボイスメモで録音し、それを聞きながらPagesに入力する。

◆入力を終了後、写真を挿入し、文字や写真の位置、大きさを考えながら、写真の縮小・拡大等の操作をする。

◆コミュニケーションのルールに沿って、伝え方の簡単な練習をする。

★写真アプリのお気に入りを活用することで、見たい写真や重要な写真をすぐに取り出すことができ、Pagesのシートに簡単に貼り付けることができる。

★ボイスメモに文章を録音することで、それを聞きながらキーボード入力ができる。

使用機器

iPad ワイヤレスキーボード

写真 Pages ボイスメモ

説明シート

説明シートを廊下に掲示し、他者との関係に広げられるようにした。

いいねボタン

活用目的（意図）

児童生徒の実態

活用の実際

活用のポイント

使用アプリ

事例紹介画像

事例紹介画像の説明

自走型データベースの仕組みを活用した他の情報の共有

ICT活用Tips & Tricks



36事例

ICT活用事例



31件

ICT活用アイデア

アプリ検索



800件



iPadアプリ検索



237件

Webアプリ検索

令和3年度に収集した事例を登録

※ 件数は令和4年9月30日現在

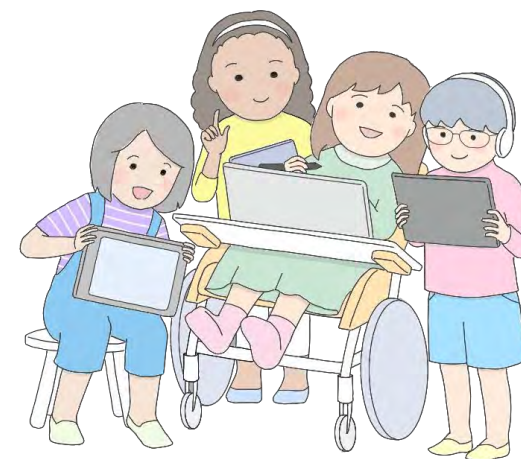
データベースの登録・更新・削除

	新規登録	登録者	登録方法	更新・削除	更新・削除者	更新・削除方法
ICT活用事例	可	<ul style="list-style-type: none"> ● 校長決裁を得た職員 ● ICT担当者 	Microsoft Forms (アップロード)	不可	センター所員	データベース操作
ICT活用アイデア	可	誰でも可	検索・閲覧アプリ (新規登録モード)	可	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録者 ● センター所員 	検索・閲覧アプリ (編集モード)
iPadアプリ検索	可	誰でも可	検索・閲覧アプリ (新規登録モード)	可	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録者 ● センター所員 	検索・閲覧アプリ (編集モード)
Webアプリ検索	可	誰でも可	検索・閲覧アプリ (新規登録モード)	可	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録者 ● センター所員 	検索・閲覧アプリ (編集モード)

※ 上の表は、Microsoft Teamsの専用チームのメンバーであることが前提

今後の展望

- 今後の展望



今後の展望

10月

- データベースの試行運用を開始

ICT担当者研修会における利用方法の説明、マニュアルの配付

1月

- ICT担当者を対象としたアンケート調査の実施

データベースの改善具合の確認、データベース利用教員の状況、情報リテラシー向上の度合い等の調査

2月

- データベースの利用状況調査・分析の実施

データベースのアクセス数や好評価数、新規登録の状況、チーム内でのメッセージ交換の状況などの分析、データベースの微調整の実施

4月

- データベースの本格運用を開始

知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

ー生活単元学習の授業づくりを通してー

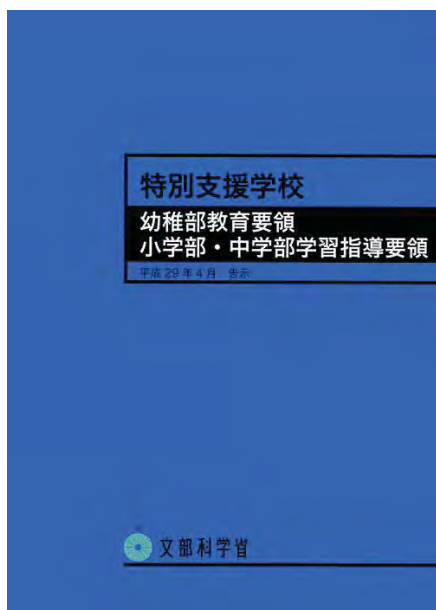


愛媛県イメージアップキャラクター
みきゃん

愛媛県総合教育センター
特別支援教育室
指導主事 玉乃井 美穂

研究の動機・背景

学習指導要領の改訂



「主体的・対話
的で深い学び」
の実現に向けた
授業改善

知的障がいのある児童生徒の学習上の特性

- 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の場面の中で生かすことが難しい。
- 成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」
から抜粋



学習上の特性を踏まえた授業改善

生活単元学習に関する先行研究

「主体的な学び」「対話的な学び」
「深い学び」（以下「三つの学び」）
の視点から授業改善を進め、その成果
をまとめたものは少ない。

1 研究の目的

知的障がい教育における生活単元学習の授業に焦点を当て、資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一助となる資料を作成し提供することで、特別支援学校や特別支援学級での授業づくりを支援する。

2 研究の概要

(1) アンケート調査の実施

目的：目指す授業づくりの課題や授業改善のポイントを明らかにする

対象：愛媛県内の知的障がい特別支援学校1校（協力学校）に勤務する知的障がい教育に4年以上の経験がある教員（75名）

内容：「三つの学び」をしている子どもの姿や授業における実現の程度、授業づくりの工夫と課題等

(2) 「『三つの学び』を引き出すための年間指導計画・単元計画・授業計画を考える際のポイント」の作成

- (3) 「三つの学び」をしている子どもの姿の整理
- (4) 「単元・授業計画の考え方」の検討
- (5) 協力学校における授業実践
 - ・ 小学部 | 学級
 - ・ 中学部 | 学級
- (6) 「単元・授業計画の考え方」の妥当性の検証

3 研究の内容

- (1) 「『三つの学び』を引き出すための年間指導計画・単元計画・授業計画を考える際のポイント」の作成

「主体的・対話的で深い学び」の捉え方の難しさや、授業で実現することの難しさがある。

[手順]

- ① アンケートの回答を、類似する記述内容ごとに分類
- ② テキストマイニングによる共起キーワード分析
- ③ 学習指導要領及び先行研究等を参考にして、整理

「三つの学び」の姿を引き出すための年間指導計画・単元計画・授業計画を考える際のポイント

	a 「主体的な学び」の姿を引き出すために	b 「対話的な学び」の姿を引き出すために	c 「深い学び」の姿を引き出すために
A 年間指導計画	①子どもの実態や興味・関心に応じた単元設定 ②地域の物的資源や学校の特色を生かした単元設定	①人との関わりのある活動が保証された単元設定 ②生活年齢に応じた地域の人的資源を生かした単元設定	①単元間の関連性や学びの系統性、偏りのない学習内容を大切に単元設定・単元配列 ②他教科等の年間指導計画との関連性を考慮した単元設定・単元配列
B 単元計画	①実際の生活と結び付き、子どもの実態や興味・関心に応じた課題設定 ②実物を活用したり、体験的な活動を取り入れたりする単元展開 ③単元を通して子どもの思考が途切れない工夫 ④子どもの実態に応じた教材・教具の活用や開発（ICTの活用を含む） ⑤達成感や充実感を味わえる単元展開	①子ども同士の協働がある課題設定や単元展開 ②子どもの実態に応じた様々な人と関わる場面や、対話できる場面が設けられた単元展開 ③人との関わりに必然性のある単元展開	①各教科等で学習したことや身に付けた知識・技能を活用する課題設定や単元展開 ②目標の達成や課題の解決に向け、子どもの思考の流れに沿った単元展開 ③単元での学びを振り返りつつ、実際の生活に生かそうとする意欲を高める単元展開 ④成長を実感できる単元展開
C 授業計画	①授業の目標や学習活動に見通しを持つための支援の工夫 ②直接的な支援を最小限にする状況づくりの工夫 ③「なぜ」「何のために」学習するのが分かる支援の工夫 ④目標を達成するための教材・教具の工夫 ⑤できたことや分かったことに気付く振り返りの工夫 ⑥次時への意欲や期待感を高める振り返りの工夫 ⑦効果的なICTの活用	①教師や友達と関わる活動や場の設定 ②言葉や身振り、文字、絵、カード、ワークシートなどの多様な手段を用いて、考えや気持ちを表現する活動の設定 ③子どもが相互に活動の様子を見合うことができる環境設定の工夫 ④子どもの実態に応じた、子ども同士の関わりを促す支援の工夫 ⑤子どもが相互に思考を深められる学習グループ構成の工夫 ⑥自分の考えと友達のを比べたり、活動を振り返ったりするための、子どもの思考を可視化する工夫 ⑦効果的なICTの活用	①学んだことを自分なりに表現することができる振り返りの工夫 ②学んだことを基に新たな課題を持つことができる振り返りの工夫 ③成長を実感できる自己評価・他者評価の工夫 ④子どもの行動を日常生活と結び付け、「なぜ」「何のために」するのか意味付けたり価値付けたりする工夫 ⑤子どもがより考えようとする発問や言葉掛けの工夫 ⑥子どもが自ら考えたり、判断したりして、課題解決ができる教材や場の設定の工夫 ⑦効果的なICTの活用

*教材：学習目標を達成するための材料（内容） 教具：教えるための道具。学習効果を上げるために用いる道具

補助資料2

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくり実践ガイドブック」

(2) 「三つの学び」をしている子どもの姿の整理

「三つの学び」をしている子どもの姿を捉えやすくするために、具体的な「学びの姿」として示す必要がある。

[手順]

- ① アンケートの回答を、授業展開に沿って分類
- ② 学習指導要領等を参考にして、タイトル（「学びの姿」）を設定
- ③ 該当する回答のないものは、対応する子どもの姿を追加

授業等でねらいたい「三つの学び」の姿

場面	「主体的な学び」の姿	「対話的な学び」の姿	「深い学び」の姿
導入	<p>興味・関心や期待感を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「やりたい」「知りたい」「なぜかな」と思う。 ○することが分かり、自発的に準備をする。 <p>目標や目的意識を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「なぜ」「何のために」学習するのかが分かる。 ○目標（目当て）が分かる。 	<p>気持ちや考えを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉や身振り、カードなどを用いて、興味・関心を持ったことや疑問に思ったことを伝える。 <p>教師や友達とやり取りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師や友達の発言を基に、ねらいや課題に気付く。 	<p>自分にとっての学びの意味をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を日常生活や将来と結び付け、「必要だ」「役立つ」と感じる。 <p>課題を見付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容から、自分や友達が取らねばならない課題が分かる。
展開	<p>見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の流れや時間に対する見通しを持つ。 ○スケジュールや手順書、イラストなどを理解し、見通しを持つ。 ○教師や友達の様子を見て活動内容を理解し、見通しを持つ。 ○場の状況を理解して、見通しを持つ。 <p>積極的に粘り強く取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材・教具に興味・関心を持ち、目で追う、自発的に手を伸ばす、扱うなど、進んで関わる。 ○活動に興味・関心を持ち、自分から取り組んだり、集中して取り組んだりする。 ○やりたいことや好きなものなど、自己決定する。 ○時間いっぱい取り組んだり、最後までやり遂げたりする。 ○課題に対し、自分なりの考えを基に行動する。 ○疑問に思ったことを自発的に調べる。 ○自分なりの工夫を加える。 ○苦手なことや新しいことに挑戦する。 ○補助具を自主的に使ったり、より使いやすい道具を使うとうしたりする。 <p>自信を持つ・分かる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動内容が分かり、楽しむ。 ○活動を通して、「もっとやりたい」「もっと知りたい」など、更に意欲を高める。 ○手順を理解し、手順書を必要としなくなる。 	<p>気持ちや考えを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉や身振り、カードなどを用いて、自分の気持ちを伝える。 ○自分の考えや疑問に思ったこと、興味・関心の対象を伝える。 ○教師や友達に協力を依頼したり、援助を求めたりする。 ○教師や友達に自発的に提案したり、積極的に発表したりする。 <p>互いの活動を見合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師や友達が教材・教具を使う様子に注目する。 ○教師や友達の様子に注目して、反応を示す。 ○教師や友達の様子に注目し、行動をまねたり、行動を変えたりする。 <p>教師や友達とやり取りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達を意識して、道具を共有したり、物の受け渡しをしたりする。 ○言葉やカードなどを用いて、やり取りをする。 ○相手に応じて、コミュニケーション手段を工夫する。 ○教師や友達からの働き掛けに応じて、行動したり、応えたりする。 ○友達を活動に誘う、手伝う、教えるなど、自発的に働き掛ける。 ○友達との話し合いを通して、新たに考えたり、考えを広げたりする。 <p>友達と協働する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師や友達とのやり取りのある遊び(ごっこ遊びなど)を 	<p>知識や技能を相互に関連付けたり、活用したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を、様々な視点から日常生活と照らし合わせて考える。 ○学習内容が、これまでに各教科等で学習したことがあることだと気付く。 ○既習事項と結び付けたり、当てはめて考えたりする。 ○「どうすればうまくできるか」「なぜそうするか」などを考えながら行動する。 ○知識や経験を基に、工夫を加えて新たなアイデアを生み出したり、活動を広げたり、発展させたりする。 <p>課題解決に向けて活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を見つけ、解決しようとする。 ○既得の知識や新しい学びを比較したり活用したりして、試行錯誤しながら、課題に取り組む。 ○課題解決のために、他者の考えや評価を活用する。 ○集団の課題を理解し、率先して役割を担う。

「三つの学び」の姿を、子どもの行動を基に整理した

指導要領1

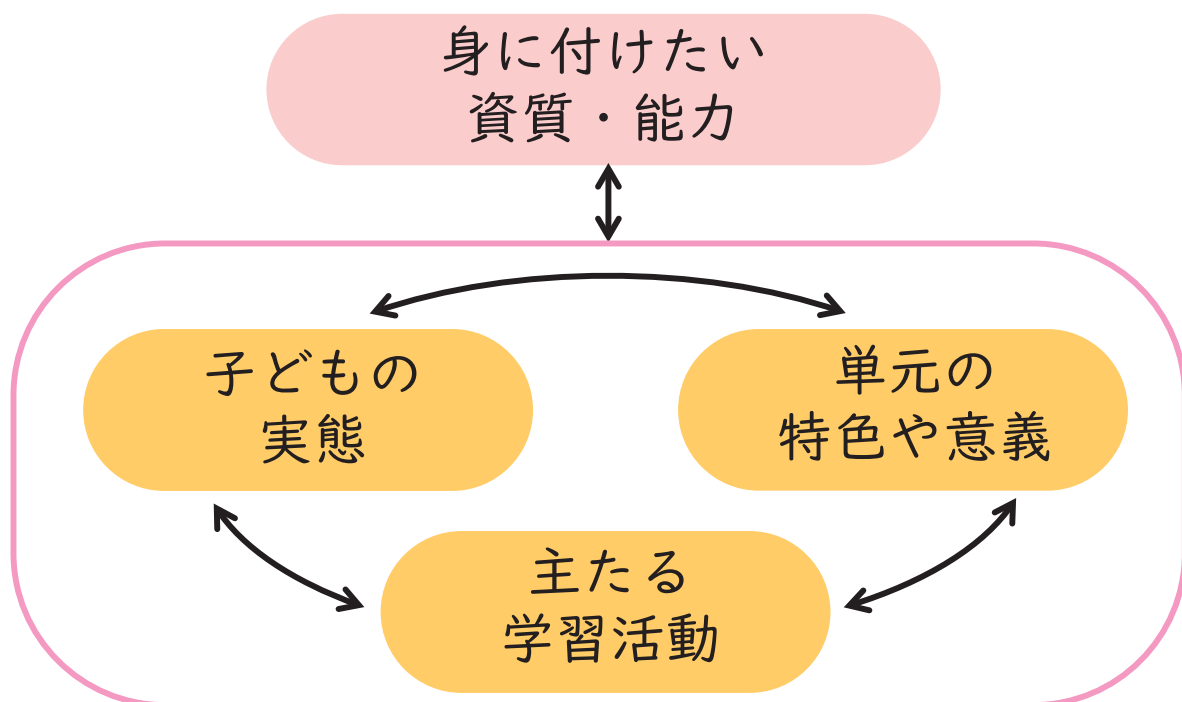
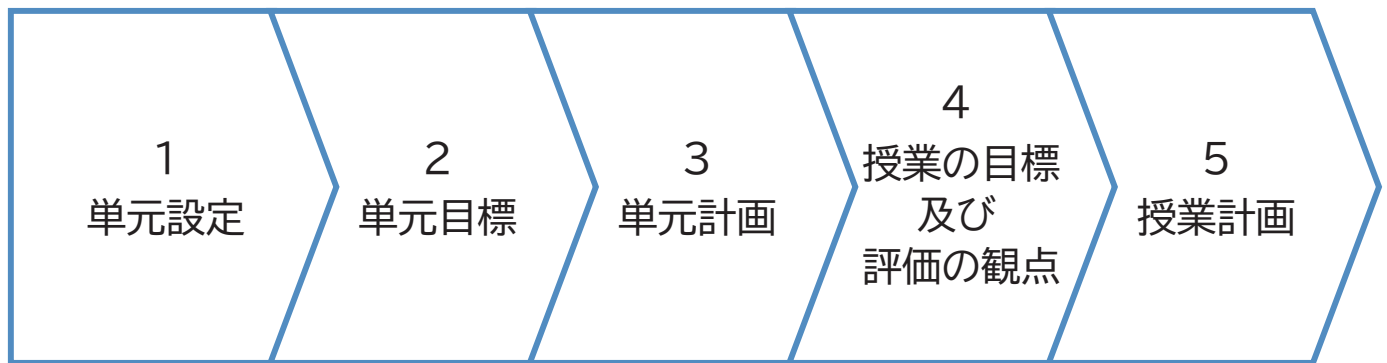
「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくり実践ガイドブック」一部抜粋

(3) 「単元・授業計画の考え方」の検討及び授業実践

ア 考え方の柱

- 子どもの思考の流れを重視すること
- 思考が表れた姿である「三つの学び」の姿の具現化、焦点化を図ること
- 「三つの学び」の姿を引き出すための具体的な支援の手立てを考えること

イ 「単元・授業計画の考え方」

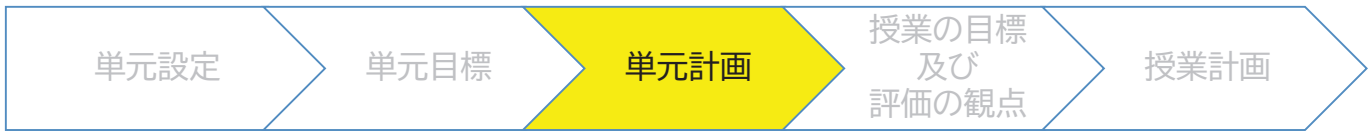




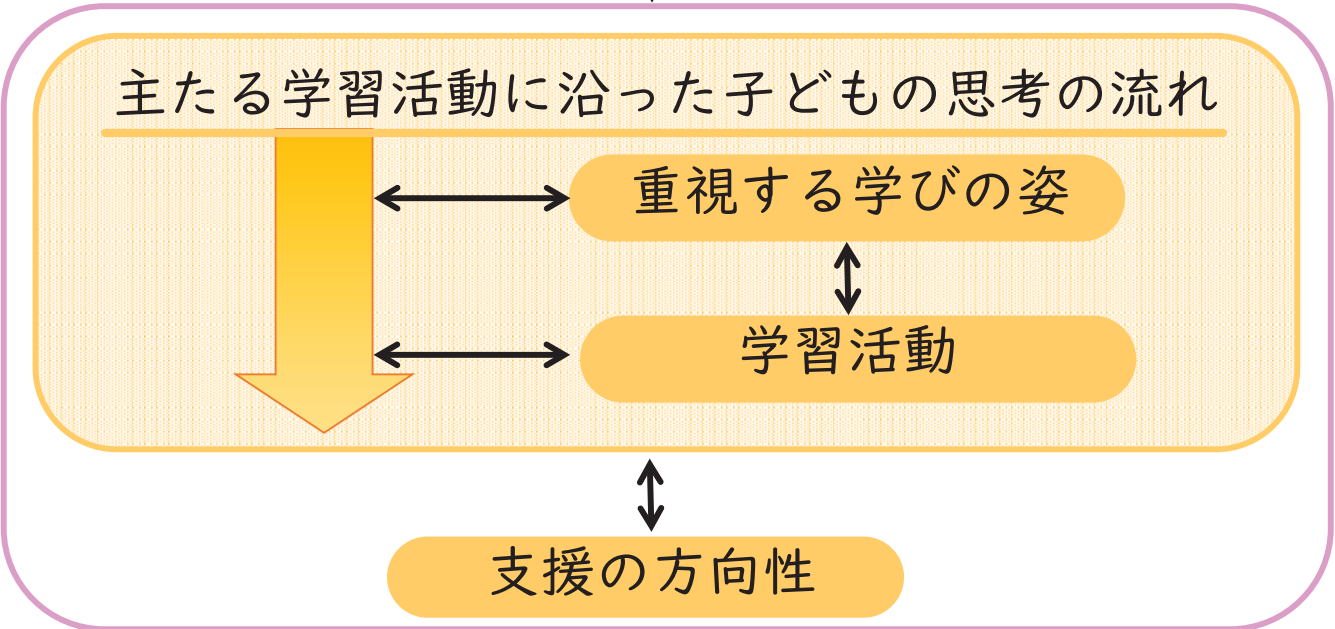
単元目標

- 学級全体の単元目標
- 子ども一人一人の単元目標

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力・人間性等



単元目標



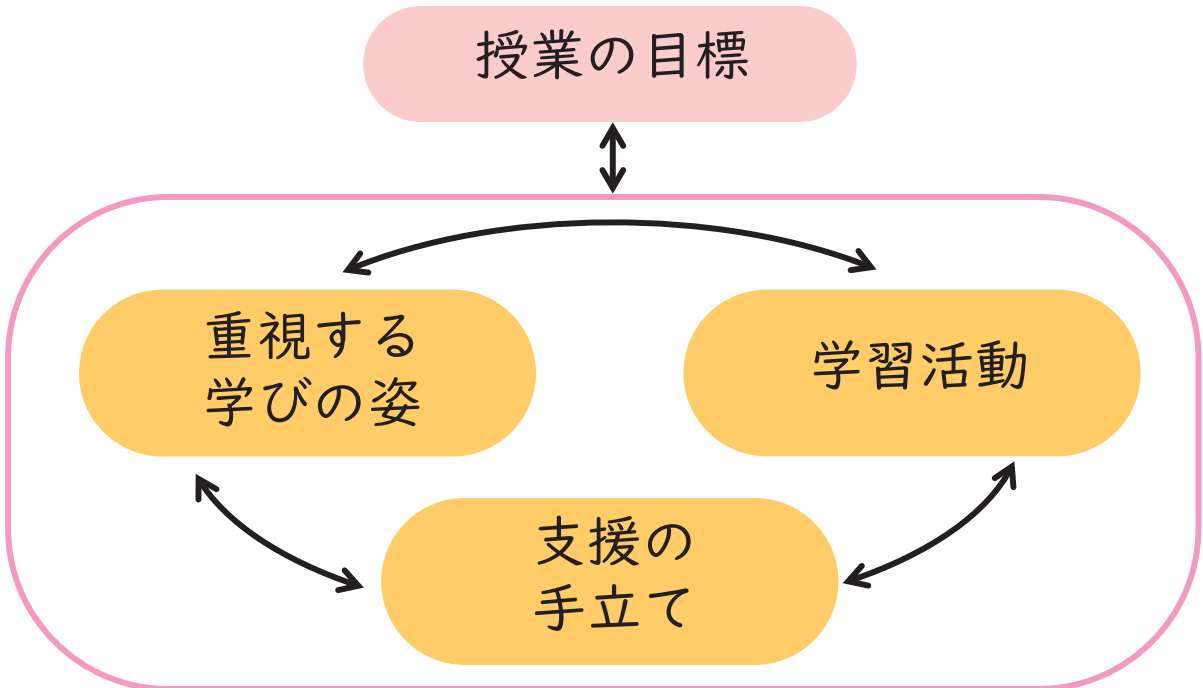


授業の目標

- 学級全体の授業の目標
- 子ども一人一人の授業の目標

【評価の観点】

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度



(3) 協力学校での授業実践

対象：小学部3年・中学部3年各1学級

ア 方法

- 単元計画及び授業計画
指導主事が原案を作成し、学級担任及び副担任と検討
- 授業者：学級担任及び副担任
- 記録者：指導主事
- 評価：学級担任及び副担任、指導主事

単元設定

単元目標

単元計画

授業の目標及び
評価の観点

授業計画

イ 実践事例：小学部3年（4名）

単元「ジュースをかってパーティーをしよう！」
（全13時間）

子どもの実態

- 友達同士で関わり合って遊ぶ。
- 互いの行動に関心が高い。
- 友達と、一つの目的に向かって共に取り組む経験は少ない。

単元観

- 興味・関心を持ちやすい。
- 一人一人に応じた活動を設定しやすい。
- 家庭の役割を担うことにつながる。

単元目標（学級の目標）

知識及び技能	自動販売機でジュースを買ったり、パーティーの準備をしたりする。
思考力・判断力・表現力等	教師や友達と計画したり、一緒に活動したりする。
学びに向かう力・人間性等	友達と一緒に活動することの楽しさを味わいながら、進んで役割を果たそうとする。

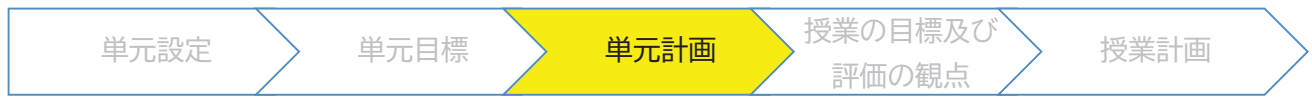
ねらいたい子どもの思考

自動販売機を使いたい

みんなで協力すると
楽しいな

どうしたらいいのかな

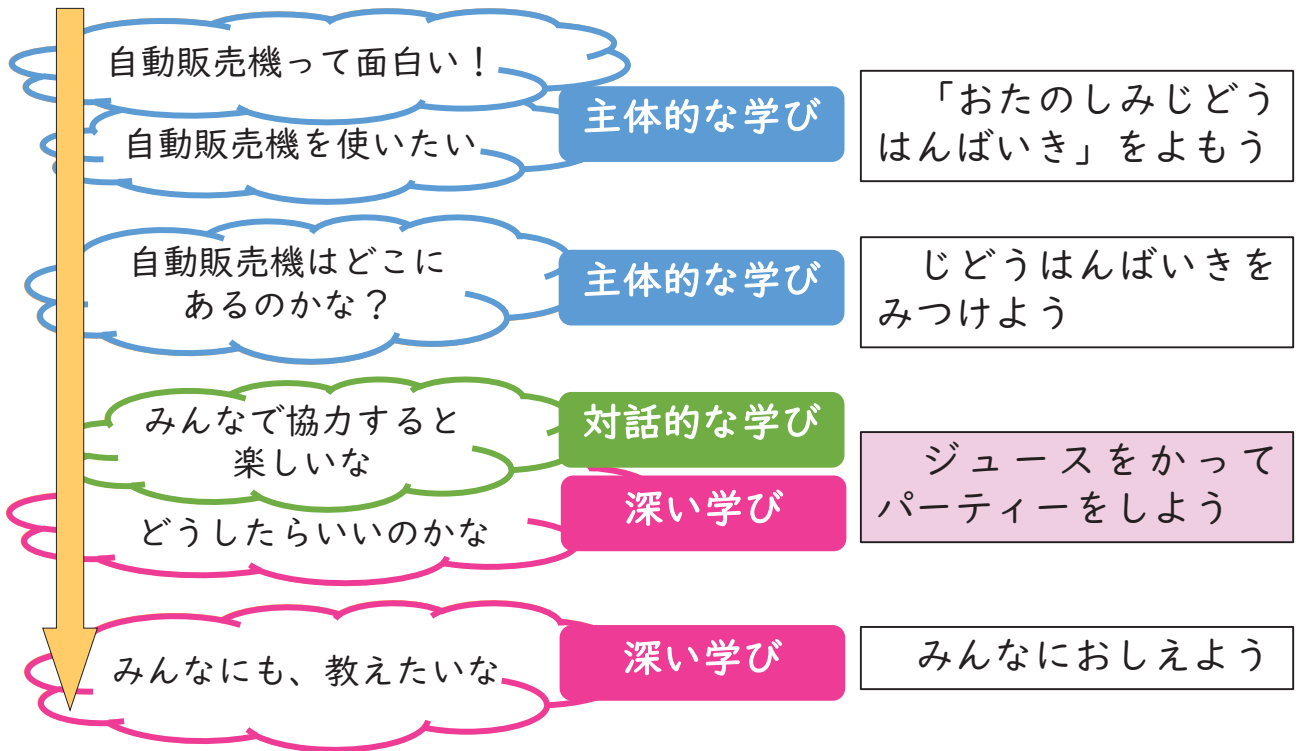




子どもの思考の流れ

重視する
学びの姿

学習活動



ジュースをかってパーティーをしよう



授業の目標 (Aさん)

友達と二人で、コップ系の仕事に取り組む。

評価規準

知識・技能	コップ係がすることが分かり、手順に沿って行っている。
思考・判断・表現	状況を見て、コップ系の仕事をしている。
主体的に学習に取り組む態度	友達に合わせてたり、働き掛けたりしながら、コップ系の仕事をしようとしている。

学習活動3 系の活動を行う

重視する学びの姿

対話的な学び

友達の動きを見て確認したり、友達の活動を待ったり、活動を促したりする。

深い学び

できていないことや足りないものに気づき、自分で解決しようとする。

支援の手立て

- ・二人組で仕事をする事が分かるように、「お仕事ボード」を提示する。
- ・「お仕事ボード」の見方を教えることで、役割の順番を意識付ける。

- ・自発的な言動を待つ。
- ・見て判断できる教具や場の設定を工夫する。



「お仕事ボード」

授業の実際：Aさんの姿

対話的な学び



友達と協力して椅子と机を動かした。

二人組の仕事をするとき、できたことを友達に伝えたり、友達がしたことを認めたりするために「オッケー。」と言った。

深い学び

友達が動かした机の向きが逆になっていたから「さかさまになってるよ。」と言って正しく直した。

「〇〇ちゃん、ここだよ。」と優しく声を掛けて、友達に教えた。

授業の目標の評価（Aさん）

知識・技能	「お仕事ボード」で仕事の順番を確認しながら、どちらが先に行うかを理解して、正しい順番で行った。
思考・判断・表現	机が逆向きに置かれていることに気付いて直したり、友達がまだ配っていない場所を教えたりした。
主体的に学習に取り組む態度	友達の様子を見て、確認しながら動く場面が多く見られた。声を掛け合い、楽しみながら取り組んだ。

単元を振り返って（学級全体）

【単元目標の評価】

知識・技能	自動販売機でジュースを買うことができ、手順書等を手掛かりにしてパーティーの準備をした。
思考・判断・表現	手順書の見方や二人組の活動の仕方が分かり、互いの行動を確認したり、教え合ったりして、パーティーの準備をした。
主体的に学習に取り組む態度	教師や友達とパーティーをすることを楽しみにしながら、自分の係の役割を進んで果たそうとする姿が、回を重ねるごとに増えた。

【単元を通した子どもの成長】

学んだことを他の場面や日常生活で生かす姿、役割が分かり取り組むことを楽しむ姿が見られた。

(4) 「単元・授業計画の考え方」の妥当性の検証

ア 焦点を当てた授業の評価

「対話的な学び」・「深い学び」をしている姿



授業の目標の達成

イ 単元の評価

- 自分から活動に取り組む姿
- 友達などを意識した言動



単元目標の達成

「単元・授業計画の考え方」は妥当

4 まとめ

【成 果】

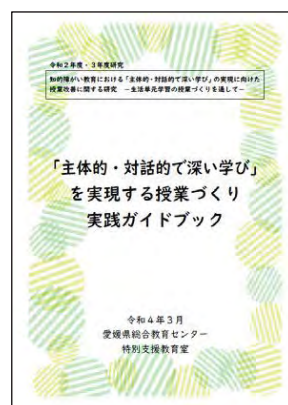
- 知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一つの方法として「単元・授業計画の考え方」を示すことができた。

【課 題】

- 生活単元学習における各教科等との関連性を明確化し、適切な学習評価の在り方について検討すること。

【成 果】

- 研究成果を「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり実践ガイドブック」としてまとめ、ホームページに掲載し、活用できるようにするとともに、各種研修講座の中で取り上げ、活用している。



【課 題】

- 研究成果物に関する周知の仕方や研修等での活用方法を工夫し、より広く研究成果を還元すること。